



やめて！不法投棄 建設業協会がボランティアで不法投棄ごみ撤去作業



雨の中での作業となりました。



このような場所をみんなでなくしましょう

熊本県建設業協会上益城支部山都分会が、5月26日、町内3カ所で発見された、不法投棄されたごみの撤去作業を行いました。建設業協会からの申し出で今回初めて実現したものです。

不法に投棄された場所には、家電製品や金属くずなどの大きいごみが横たわり、周囲の美しい景観を汚しており、なかにはビニール袋や空き缶といった、町のごみ収集に出せる生活ごみを、長期間、同じ場所に捨てられているところもありました。今回の作業で約2トンのごみが撤去・回収されました。

今回の不法投棄ごみの撤去作業は建設業協会にボランティアで行っていただきましたが、処理費用は町民の皆様に納めていただいた大事な税金を使っています。適正に処理すれば少ない費用で済むものも、不法投棄となれば何百万円といった莫大な費用が掛かります。

ただ、捨てられたものに投棄者を特定できるようなものがあれば、その投棄者にすべて片付けてもらいます。昨年度も投棄者が特定できた5件について、ごみの処理を行っていただきました。今回も、不法投棄されたものの中に投棄者を特定できるような情報があつたため、投棄者を特定し撤去していただく予定です。

町では、これからもごみの不法投棄がないよう、各種団体と協力して監視を行っていきます。



アナログ放送は7月24日までです 地デジの対策はお済みですか？

テレビの地上デジタル放送への準備はお済みですか？

テレビの画面が、時々、青くなりお知らせが流れていませんか？

アナログ放送を見ている方は、早めにお近くの電器店若しくはデジサポへご相談ください。

①デジサポ熊本

096-300-8800

平日毎日 9:00~21:00

土日祝祭日 9:00~18:00

②地デジコールセンター

0570-07-0101

7月18日~31日は、24時間いつでも

7月18日~31日以外は、①デジサポ熊本と同じ

※7月24日前後は、繋がりにくくなるかもしれません。



通潤橋がポストカードになりました

郵便局ご当地フォルムカード「第3弾」

全国の郵便局で発売中の「ご当地フォルムカード」。日本の各都道府県を代表する食べ物や名所をかたどったポストカードです。そのシリーズ第3弾が4月に発売され、熊本ご当地フォルムカードに「通潤橋」が選ばれました。地元からのふるさと便りに、旅先からの便りに、ご活用されてはいかがですか。

価格は1枚180円(税込)です。(120円切手で送ることができます)全国の郵便局で取り扱っています。

東日本大震災からの復興を支えるために

～被災者と被災地を支援する町の動き～

義援金ありがとうございました。

町で、東日本大震災の被災地への義援金を募ったところ、6,661,858円(5月30日現在)の義援金が寄せられました。これは、役場などの窓口を設置した義援金箱、また各行政区からお寄せいただいた義援金の総額です。すべて日本赤十字社熊本県支部を通じ、被災地に送ります。

被災地への支援物資

東日本大震災は、その被害が甚大でかつ広範囲に及んでいることから、支援が一カ所に集中することがないよう、県を単位として支援活動が行われています。熊本県は、宮城県を支援先とし、宮城県からの要請に基づいた物資を支援することとしています。4月上旬、その要請に基づき、新品の衣類を募集しました。短期間の募集にもかかわらず、新品の衣類(特に下着、靴下、Tシャツ、上着)515点をご提供いただきました。物資は、県を通じて宮城県に送りました。

宮城県で活動 町職員を災害派遣しました。

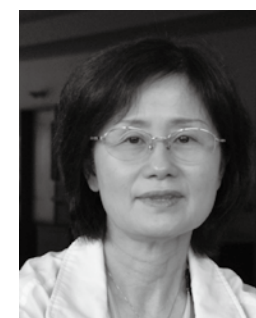
山都町では、熊本県からの要請を受け、職員を宮城県南三陸町と東松島市に派遣しました。



荒木 敏久

清和総合支所
産業振興課 係長

5月26日~6月6日、人的支援熊本チーム派遣職員として、宮城県東松島市へ赴く。市役所で被災関連の窓口業務を行う。



門川 次子

健康福祉課
保健師

5月2日~9日、熊本県災害派遣保健医療チームのメンバーとして、宮城県南三陸町へ赴く。避難所をまわり健康相談を行う。

「死者・行方不明者1213人(6月3日現在)という大きな被害を受けた東松島市。派遣時48カ所の避難所に約2400人の避難者がいました。津波の被害を受けた市の被災地の状況は、想像を絶するものでした。しかし、津波がきた地域と来なかった地域の被害の差がとても大きいことに驚きました。

私が参加した熊本チーム第12陣は県と市町村職員20名。被災自治体の支援を目的として、福岡県からの派遣職員などもあわせて70名が同時期に派遣されており、義援金申請、生活再建支援金、住宅応急修理などの申請受付業務など、被災された方が通常の生活に戻るために必要な手続きのお手伝いを行いました。被災から3ヶ月経とうとしていましたが、仮設住宅への住居がはじまるなど東松島市はようやく復興へ1歩踏み出したような状態でした。

大きな被害を受けた地域とそれに対応する自治体の姿を見て、防災に対する意識が変わりました。被災地の方の「油断していたのかもしれない」という言葉が耳に残っています。山都町で起こりうる災害の種類は違うけれども、一人一人の普段からの心構えが必要だと感じています。また、地域のコミュニティが、非常時にはとても重要な役割を果たすことを知ってもらいたいです。」

「津波で大きな被害を受けた南三陸町は、見渡す限り無残ながれきが広がり、本当に言葉も出ない状況でした。私は、そこから車で1時間の登米(とめ)市の避難所11カ所で、南三陸町からの避難者の健康相談や心のケアを行いました。同時期に10の県や市の保健医療チームが活動していました。熊本県のチームは医師・薬剤師・心理士・保健師・歯科衛生士などで構成されていたため、適確な活動ができました。避難所を訪問し、声を掛けて話しを聞くことで、心のケアや治療にもつながります。小学1年生の男の子と遊んでいると、その家族が「震災以降、珍しく大きな声でしゃべっている」と喜んでくれました。きて良かったと感じた瞬間でした。

強く印象に残っているのは、70代の女性2人から、同じ言葉を掛けられたことでした。「家族や地域の絆はとても大事だということが被災してはじめてわかった。」私が活動した登米市は、避難所の食事の献立を登米市の栄養士が作成し、材料も調達。廃校を利用したある避難所では、避難者自ら当番制で食事を作って運営をするなど、自治体間や地域などさまざまな「絆」が被災地を支えていました。

町の復興には、まず人の復興。被災地での、心のケアや公衆衛生面の役割の大きさを感じた一週間でした。」